

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
分担研究報告書

福島県における感染症関連神経疾患の発生動向調査とその病原体検査

研究分担者 細矢光亮 福島県立医科大学小児科 主任教授

研究要旨

2019年4月より2019年3月までの1年間に、福島県において、急性脳炎・脳症の発生が6例あり、病原体はインフルエンザAが3例、マイコプラズマが2例、不明が1例であった。同期間に、急性弛緩性麻痺の発生が2例あり、何れもギラン・バレー症候群であった。エンテロウイルスD68の関与が疑われる症例はなかった。

A．研究目的

感染症関連中枢神経疾患等による小児の入院患者の全数を福島県内全域で継続して把握し、福島県における発生動向を調査する。

B．研究方法

福島県の小児が入院できる病院より急性脳炎・脳症、急性弛緩性麻痺の入院患者をメーリングリストで年齢、性別で送ってもらい集計する。

（倫理面への配慮）

年齢、性別、診断名のみ集計しており、個人を同定できる情報は一切収集していない。

C．研究結果

2019年4月より2019年3月までの1年間に、福島県において、急性脳炎・脳症が6例（病原体はインフルエンザAが3例、マイコプラズマが2例、不明が1例）、急性弛緩性麻痺が2例（ギラン・バレー症候群が2例）発生した。急性脳炎・脳症、急性弛緩性麻痺共にエンテロウイルスD68の関与が疑われる症例はなかった。

D．考察

福島県内で、急性脳炎・脳症は毎年10名前後、急性弛緩性麻痺（GBSを含む）は毎年0～3名発生している。急性脳炎・脳症の病原体判明率は、前方視的調査開始後上昇傾向にあり、最も多いのはインフルエンザウイルスA型で、次がHHV-6である。一方、急性弛緩性麻痺（GBSを含む）の病原体は不明なものが多く、エンテロウイルスD68の関与が証明された例は未だない。

E．結論

前方視的発生動向調査の結果、2019年度に、福

島県内において、急性脳炎・脳症は6例、急性弛緩性麻痺（GBSを含む）は2例発生したことが明らかになった。

F．研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

**G．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）**

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし